

シリーズ

笑顔をつくる働き方改革

県立鶴岡養護学校

村上 未紀 校長

小中高等部合わせて130名を超える児童生徒、その指導に携わる教職員は100名以上という大規模校。先生方の主体的な取組みの充実により、働き方改革を推進している取組みをうかがいました。



☆改善へ自走する先生方の潜在能力☆

☆合言葉は「ウェルビーイング」☆

Q：4月の時間外在校等時間が昨年度から大幅に削減されました。どのような取組みをされたのですか？

A：年度当初に新たな取組みをしたのではなく、**改善に向けた継続的な取組みの積み上げ**により、結果的に**年度当初の業務が精選・縮減**された。校長としても、この数値結果には驚いたところ（笑顔）。

Q：「改善に向けた継続的な取組みの積み上げ」について、詳しく教えてください。

A：本校では Google の **スプレッドシート**（右図）を活用して、**業務削減の可視化**を図った。「スクラップしたこと」「スクラップしたいこと」を、各分掌部、各学年部別に入力してもらった。部所属の教職員はもちろんのこと、他の部に所属する教職員も**自由に書き込める**ようにした。この一連の流れの中で、全職員が**課題意識を共有**したのが12月頃。その後、1月から3月にかけては**課題解決策を各部で具現化して新年度**を迎えた。この取組みの積み上げによる教育課程改善が新年度当初につながった。

★スクラップしたこと ★スクラップしたいこと を負担のない範囲で記載ください。
○他の分掌部に対して、「このようなスクラップどうでしょう。」の提案 同じ分掌部内容にかんする提案なら同じ枠に記載可。

教務部	学校活動推進部	児童生徒活動推進部	健康安全推進部
★運営委員会の廃止	★学校メール確認、転送をsssさんに依頼	★文集費を学級費の中に入れた（学費審査業務作成なし）	★性に関するポトをWebで英
★日程黒板の簡略化	★学校評価委員会開催回数を減	★文集のページ数削減	★いきいき発行
★保護者向け始業式、終業式案内の廃止（つるようだよりに含む）	★学校評価アンケートをWebで実施	★事務作業を部員で分担	★清掃強要日の
★PTA広報部職員紹介号の様式の簡略化	★わいわいクラブの事業削減（学校活動推進部主催の事業の廃止）		★衛生委員会開催回数の（法では？）
★教科等委員会の内容削減	★サマースクールの半日開催（昼食なし）	★様々なアンケートのWeb集約	★学校保健日誌デジタル化

Q：教職員が100名以上の大きな組織です。学校経営方針を具現化する困難さはありませんか？

A：**ミドルリーダー**となる教務主任、分掌部長、学部主任が進むべき方向性を大切にしながら、寄せられた**意見をしっかりとまとめ、風通しの良い組織**を築いてくれている。**心から感謝**している。十分に検討を重ねて調整してくれるため、昨年度途中からは**運営委員会は廃止**した。

Q：学校全体の前向きな雰囲気は、どのようにして育まれたのですか？

A：「**不必要な荷物（業務）を背負うのをやめよう**」と伝えたのがスタートライン。**先生方の素晴らしい潜在能力**が、忙しさが原因で発揮しきれずにいた。大切にしなければならない**本来の業務**は、特別支援教育の専門性向上や教育内容の充実。それらに**結びつかないことは削減（スクラップ）**や**改善**していくことで共通理解を図った。スプレッドシートは**指導や支援に関する課題共有**で使い始め、その中で**互いにコメントし合う同僚性**も育まれた。



～ 裏面に続く ～

Q : 課題意識共有化がもたらしている効果は他にありますか？

A : 業務効率と授業改善に関連して、ICTを積極的に活用する等、改善に向けて自走する姿が増えたと感じている。他校で取り組んでいる先進的な事例を取り入れたり、職員室モニターに欠席者情報を映し出して共有化を始めてみたり、業務支援アプリを作成したりと、各自の発案で自信を持って改善を進めている。ICT教育推進部では先生方がICT活用に必要な情報を紹介する通信(右図)を自主的に作成している。同様に教育課程や授業改善についても自主的に検討してくれており、寄宿舎指導員や給食関係者の方々が自主研修に出向く姿も見られている。校長の役割は、ねらいに向けて走る先生方が安全にたどり着くための「運転支援システム」程度(笑顔)。



Q : 今後に向けての考えを教えてください。

A : 合言葉は「ウェルビーイング」。先生方も改善はまだまだ成長途上と感じている。外部の関係機関とのつながりも大切にしながら、ウェルビーイングな体制と生活に向けて先生方と共に進めていきたい。

令和6年度上期の時間外在校等時間

全校種において最も少ない上期時間外在校等時間となりました!!

項目	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
上期月平均 時間外在校等時間 (前年度比)	33時間46分 (-2時間24分)	41時間46分 (-2時間53分)	20時間58分 (-1時間56分)	40時間40分 (-1時間53分)
《第Ⅱ期プラン目標》 上期月平均 80時間超人数	6人(0.2%) (+2人)	40人(1.9%) (-25人)	0人(0.0%) (±0人)	108人(6.0%) (-34人)

- ◎ 学校、先生方の前向きな取組みにより、改善がより進んだ令和6年度上期となりました。
- ◎ 中学校・高等学校の改善が進んでいます。特別支援学校は80時間超0人を継続しています。
- ◎ 第Ⅱ期(令和5~7年度)プランは「半期月平均80時間超人数」0人が目標となっています。

★取組み状況チェックシート★

ミドルリーダーの積極的な牽引や、同僚性のある風通しの良い雰囲気によって勤務時間への意識を高め合う等、教職員間での連携を土台とした「更なる意識改革」が進んでいます。

「教育課程直し」による成果が増えています。余剰時数の削減、年間計画や日課の改善、モジュール制の導入、教科担任制やチーム担任制の実施など、多様な取組みがみられました。

本号特集の鶴岡養護学校のように、各校の実情に応じてグループウェアツールをカスタマイズする等の「ICTの有効活用」が進んでいます。今後、好事例をお伝えする予定です。